

## 「高山市協働のまちづくりフォーラム2015」実施報告と分析・評価

### 1. 目的

地域課題の解決促進

### 2. 目標

まちづくり協議会・市民活動団体等が互いに、目的の共有及び情報の共有をすることで、地域づくり・地域の課題解決に向けた協働の仕組みづくりにつなげる。

### 3. テーマ

「互いに知り合おう」

### 4. 実施日時及び会場

平成27年11月21日（土）13:30～16:50（開場13:00）

高山市役所 地下市民ホール

### 5. 参加者

#### ○所属別

区分	参加者数（人）	備考
まちづくり協議会	53	参加団体数 18
市民活動団体	23	参加団体数 17
市職員（まちづくり担当職員含む）	15(13)	
一般市民	7	
コミュニティ診断士	0	
報道	3	ヒットネット TV、中日新聞、市民時報社
計	101	

### 6. 内容及び所要時間

○市民活動団体の活動紹介展示見学（開場13:00～13:30）

○開会（13:30～13:37）

あいさつ 市民活動部長

○開催趣旨説明（13:38～13:43）

市民活動推進課協働推進グループリーダー

- ・高山市を取り巻く現状と課題について
- ・高山市の協働のまちづくりの取り組み状況について
- ・「協働のまちづくりフォーラム2015」の目的について

- ・「協働のまちづくりフォーラム2015」の内容について

## ○基調講演（13：45～14：45）

講師：立命館大学産業社会学部 教授 乾 亨 氏 いぬい こう

演題：地域まちづくりの新しい担い手～求められる「地縁も志縁も」型組織～

内容：まちづくり協議会と市民活動団体の協働の必要性や先進地の事例等

### ◆キーワードは、地縁、志縁

- ◆地域の中に市民活動的動き、志ある住民の想いを活かそう  
ガチガチの「地縁組織」から、風通しのいい「志縁でつながる地縁組織へ」  
→地域に一定の力量がないとできない

### ◆ポイント

- ①市民活動団体側の立ち位置：地域、住民のために、地域の人と同じ立ち位置になる
- ②地域組織側の受け入れ姿勢：地縁の輪の中に取り込んでいく

### ◆可能性

- ①地域の人による地域密着型市民活動団体との協働 → 新宮地区、久々野地区の事例
- ②地域コミュニティを動く組織にする（テーマコミュニティ化）  
→まちづくり協議会自体を志縁組織化し、地域課題解決のための活動に取り組む
- ③地域の中に市民組織型地域組織（地縁型市民組織）をつくる  
→志ある住民による活動をまちづくり協議会がバックアップするか、信頼と人的ネットワークをもつ人材をリーダーにしてやる気あるメンバーが動ける特別組織を立ち上げる。

### ◆結論

- ・組織の力が弱いから、NPOで補完する。 → 不可能
- ・NPOを活用するためにまちづくり組織側は、資源を理解し活動方針を固める。  
(可能性：②、③)
- ・まちづくり協議会のキーマンなる人は、外の力となるNPOをとり入れることで有効に動くことができ、地縁に支えられたテーマ型市民活動につながる。(新宮地区の事例)

### 【アンケート結果の意見より】

- ・志縁がなければ、まちづくり協議会の活動は向上していかない。
- ・講演会は事例が多く、わかりやすかった。
- ・講演の内容は非常に受け入れやすかったので、まちづくり協議会の関係者、組織の人多くに聴講できるような機会をつくってほしい。
- ・講演を聴いて、市民活動団体との連携についての考え方が深まり、なんとなく考えていたことが、明確になった。

### 【所見】

- ・地域まちづくりの新しい担い手、地縁も志縁うまく融合して多くの人材を巻き込んでいくことがまちづくり協議会の今後の課題と考えられる。

## ○まちづくり活動の事例紹介（14：45～15：25）

### （1）新宮地域おしごと発見隊

平成26年新宮まちづくり協議会設立にあたり行われた地域住民アンケート調査により課題が抽出されたことから、新宮地域に在住するNPO法人飛騨高山わらべうたの会岩塚代表が、子育てに関する取り組みを地域で支援したいという思いから事業提案し、まちづくり協議会とNPO法人飛騨高山わらべうたの会、更に運営ノウハウを提供するNPO法人まちづくりスポットの協働で実施された。

#### 【発表者】

みのしま たかし

三野島 孝 氏（新宮地区まちづくり協議会 副会長）

いわつか くみこ

岩塚 久案子 氏（NPO法人飛騨高山わらべうたの会 代表）

### （2）寺子屋くぐの

従来からNPO法人ふるさとが夏休みに行っている「寺子屋くぐの」は、主に留守家庭児童教室を利用できない子どもの居場所づくりの取り組みで、平成27年度からは新たに久々野まちづくり運営委員会も関わって実施されている。

NPO法人ふるさと、あるいは教員のOB、地元出身教育学部の学生、公民館の図書館分室司書、地元の趣味で活動している人が指導者となり、まちづくり運営委員会の部会である、人がつながる仕組みづくり局ひとづくり部の事業として運営費用を支援している。

#### 【発表者】

たにもと しゅんいち

谷本 俊一 氏（久々野まちづくり運営委員会 副委員長・NPO法人ふるさと 会員）

### 【アンケート結果の意見より】

- ・まちづくり協議会の具体的な事業の発表内容はたいへん参考になり、刺激になった。
- ・2地区の活動事例は、地域の力と専門家の力の良い形での例だと感じた。
- ・今回は、子どもの育成を中心とした内容でたいへん参考になったが、今後更にいろんな分野の課題を取り上げた開催としてほしい。
- ・地域組織がNPOと協働していくことが盛り上がるよい方法と知り、もっと連携が取れるとよいと感じた。
- ・参加、発表をさせてもらいとても勉強になったし、これからもこうした機会があるとありがたい。

### 【所見】

- ・他市事例も参考になるが、より市内他地域の様々な取り組み事例を紹介することで、まちづくり協議会の協働の取り組みに対する関心を高め、地域の課題解決活動に直結する。
- ・多岐にわたる事例紹介（今回は子どもの育成のみ）にする必要がある。

## ○市民活動団体の活動紹介展示見学（15：25～15：40）

	団体名	代表者	主な活動分野
1	NPO法人 飛騨高山わらべうたの会	岩塚 久案子	子どもの健全育成
2	飛騨高山二輪災害レスキュー隊	小木曾 晃	災害救援
3	NPO法人まちづくりスポット	竹内 ゆみ子	まちづくりの推進
4	おむぼぼの会	上本 三保子	保健、医療又は福祉の増進
5	NPO法人ブラーマ・クマリス 高山ピースパレス	生田 チサト	人権の擁護または平和の推進
6	NPO法人活エネルギーアカデミー	山崎 昌彦	環境の保全
7	アニマルレスキュー飛騨	蒲 人嗣	社会教育の推進
8	認定NPO法人 あんきや	蒲池 龍之助	保健、医療又は福祉の増進
9	はさみの会	鷲見 長一	保健、医療又は福祉の増進
10	NPO法人 山と森お助け隊	坂尻 修	環境の保全
11	飛騨高山整膚癒しの会 相合愛	宮崎 愛子	保健、医療又は福祉の増進

### 【アンケート結果の意見より】

- ・市内の活動団体を知ることができてよかった。

## ○パネルディスカッション（15：45～16：45）

内容：まちづくり協議会と市民活動団体の協働事例検証

【コーディネーター】

竹内ゆみ子氏（NPO法人まちづくりスポット 代表理事）

【パネリスト】

乾 亨 氏（立命館大学産業社会学部 教授）

三野島 孝 氏（新宮地区まちづくり協議会 副会長）

谷本 俊一 氏（久々野まちづくり運営委員会 副委員長）

（NPO法人ふるさと 会員）

◆自己紹介（4者全員で5分）

◆設問に対する意見交換（お一人3分、3クール各10分：約30分）

### 設問① 事業運営に、どのような人がどのくらい係ったか？

- ・地域の人材ネットワークで、関係者がそれぞれに広げた。（新宮）
- ・NPO法人ふるさと、あるいは教員のOB、地元出身教育学部の学生、公民館の図書館分室司書、地元の趣味で活動している方など多様な関わり（久々野）
- ・地域の人が「やりたい」と提案されたことは地域として嬉しいことであり、関わりが人から人へと輪を広げることが地縁であり、地域組織が真ん中に来る価値はある。（乾氏）

## 設問② これまでの地域活動とまちづくり協議会の活動の違いは？

- ・地域の中で別々に取り組んでいたことが、地域は一つとなり構成組織同士が連携をとれるようになった。(新宮)
- ・市から財政支援となるまちづくり支援金を受けることで活動に幅ができた。(久々野)

## 設問③ 地域の多様な主体が、地域課題について、どのように取り組むべきか？

- ・地域を知ることによって人材や地域の宝、銘のつくものを発掘し良いところを伸ばし、まちづくり活動に参加することがステータスとなる取り組みにしたい。(新宮)
- ・高校生や20代の若者の人材をいかにとり入れるかが最大の課題である。(久々野)

### **【質疑応答】**

- ・NPOと連携した結果をどのように考えているのか、また今後もこの事業において連携を継続するのか。
- 結果的にNPOとの連携になるが、NPOの代表者が地域住民であったことが志縁であり、ノウハウをもとに人から人への地縁につなぐことが必要な課題に継続的に取り組む秘訣である。(乾氏)
- ・地域課題に対して、できることから行くと本当にやらなければならないことがおそろかになるが、地域課題が多すぎて何からどのように行えばよいかを悩んでいる。

→やれることをやると何かが見えてくるので、自分たちが何をしているのかを常に問いかけながら、地域に何が残るかを検証しなければならない。(乾氏)

### **〇まとめ ～乾 亨氏（立命館大学産業社会学部 教授）～**

- ・人のネットワークは財産であり、最大の力となる。
- ・地域全体で語れる組織ができオール地域活動になったことで、仕組みと理屈を手に入れたことは素晴らしい。
- ・地域のつぶやきを集める（意見を広く募る）ことがやる気につながり、地域人材の何事かを成す力となる。
- ・地域は専門的な知識を兼ねもった市民活動的人材を待っているのので、地域活動に積極的に入り込むことが望ましい。
- ・まちづくり協議会活動は継続性が求められる取り組みなので、事務局機能が重要である。

### **【アンケート結果の意見より】**

- ・パネルディスカッションのコーディネーターの進行は素晴らしかった。

## 【所見】

・NPOの支援はいつまでも続けるのではなく、ノウハウを提供することをもって地縁活動につなぐ。

## ○閉会（16：45～16：50）

あいさつ 市民活動推進課長

## 【フォーラム全体をとおして、アンケート自由意見】

・全体的に子どもの育成に偏っているので、長寿会と障害者へのサポート内容についてとりあげてほしい。

- ・行事の参加率の増加を考えて、各地、学校、市、県などの行事を早く知りたい。
- ・まちを良くしたいというパワーと、どのように取り組んでいけるかが課題となる。
- ・NPOとの連携によって、事業に深みと幅がでることが本当に素晴らしいことである。
- ・今後は地域住民の巻き込み方や、他団体との付き合い方のノウハウを取り上げてほしい。
- ・やり方はともかく、関わり合う中でいかにしてモーターを回せるか、また希望のスイッチを切り替えられるかが重要であると感じた。
- ・市からまちづくり協議会、まちづくり協議会からNPOといった安易な図式では課題解決できないが、支援と志縁の両方とも大切にしたい。

- ・フォーラムの継続開催を希望する。
- ・継続するための人材、良いことは賛同者・賛同団体が増えること。
- ・自分の居住しているまちづくり協議会の組織は、まちづくりについての理解が低いと思われるので、もう少しどのように活性化させていったらよいのかを学習した方がよい。

今回の講演と活動報告から、地域組織がNPOと協働していくことが盛り上がるよい方法と知り、もっと連携が取れるとよいと感じた。

- ・協働のまちづくりが始まりまだ1年も経ってはいないが、間違った方向へ進んでいる地域がないかなど、20地区の代表者などの語る会を計画するべきである。
- ・今年はまだ協がスタートして1年目で、各地区特段差はないようだが、取り組む姿勢によりどんどん差が出てくると感じる。
- ・多くの市民が参加していることに感心した。
- ・両親が仕事でいない家が多いので、「寺子屋くぐの」のような子どもを預かってくれるところをもっと多く作るべきだと思う。

留守家庭児童教室を利用できない子どもの居場所づくりの取り組みは、夏休みなど学校の休校日だけでなく、平日の学校が終わった後も含めて、年間を通じた地域活動として行ってほしい。

- ・地域の一員として、物事をふかんにしか見れていなかったことに驚きと恥じ入ることばかりで、こういった動きに関心をもつようになったばかりであり、まだまだ勉強が足りない。
- 手が空いたら（リタイヤした人、子育てに一段落した人）関わるとは言ってもらえない。

- ・基調講演の講師も、パネルディスカッションもよかったので、今後いろいろな話をきかせてほしい。

今、まち協が何をすればいいのか、悩んでいる。

- ・まち協が1年を経過した時点での成果と課題、住民満足度などの、総括をやった方がよい。
- ・個人的に「自分たちでやらなければならない」という思いが強すぎたのかもしれない。
- ・20地区まちづくり協議会の取り組み内容を知りたかった。

### 【フォーラム全体所見】

- ・参加していただくことで関心度は大きく高まるので、継続開催の希望が自由意見にもあるように、開催回数を重ねることで広く多くの方に協働のしくみづくりについて関心や理解が深まる。
- ・現状では協働のまちづくりの取り組みについて、まだまだ知らない方も多く、今後も専門家による基調講演等協働の必要性や先進地の事例紹介は、繰り返し必要になる。
- ・市民活動団体はまずは自分の住む地域のまちづくり活動に積極的に参加し、地域課題について専門的なノウハウを活かした解決策を探れるとよい。
- ・今後市内の協働事例（今回は子どもの育成のみ）は、フォーラムの内容に盛り込み繰り返し紹介する必要がある。
- ・今回の開催は、協働のまちづくりがスタートしてから活動期間が浅いこともあり、「互いに知り合おう」のテーマに見合った目的の共有及び情報の共有となり、地縁・志縁が主ではあったが、地域づくり、地域の課題解決に向けた協働の仕組みづくりにつながった。
- ・中長期的な視野に立った地域づくり活動を推進するにあたり、市民活動団体は地域活動の現場に積極的に参加し、課題解決に向けた取り組みの意見など提言が必要になる。
- ・まちづくり協議会の課題やまちづくり計画を高山市ホームページを活用し広くお知らせすることで、協働活動の取り組みを促す。
- ・フォーラムの開催時期は、次年度のまちづくり協議会事業計画に反映できるよう11月頃が妥当と考えられる。